

2023年（令和五年） 9月1日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

8/10～8/23のNYMEX・WTI先物市場は78.89～83.19ドルの範囲で推移した。

8月24日は、一部アナリストがOPECプラスの減産継続・追加減産観測を発言するなど、需給ひっ迫感が高まり、4営業日ぶりに反発した。10月物終値は前日比0.16ドル高の79.05ドル。

週末25日は、引き続き、サウジアラビアの9月の追加減産継続観測が流れ、続伸した。なお、この日開催の金融関係者によるジャクソンホール会議で、パウエル米連邦準備制度理事會（FRB）議長が、金利引き上げの長期化を示唆してからは、伸び悩んだ。10月物終値は同0.78ドル高の79.83ドル。

週明け28日は、中国が一連の投資促進策を発表、景気回復期待が高まるとともに、米国では発達中の熱帯低気圧がメキシコ湾の石油施設に接近、供給不安も高まり、3営業日続伸した。10月物終値は、前週末比0.27ドル高の80.10ドル。

29日は、ハリケーンに発達した熱帯低気圧はメキシコ湾を北上中、一段と供給懸念が高まり、4営業日続伸した。ただ、米国の消費者景況指数の悪化など、軟調な経済指標が上値を抑えた。10月物終値は、前日比1.06ドル高の81.16ドル。

30日は、米国の8月の軟調な雇用統計、4～6期の国内総生産（GDP・改定値）の下方修正でインフレ鎮静化が意識され、利上げ継続が遠のいたとする観測から、5営業日続伸した。ただ、フロリダ州に上陸したハリケーン「イダリア」による供給懸念の高まりが、上値を抑えた。10月物終値は前日比0.47ドル高の81.63ドル。

中東産バイ原油/東京市場（10月渡し）は、8月10日～23

日の間、85.50～88.30ドルの範囲で推移。8月24日86.10ドル、25日86.60ドル、28日86.40ドル、29日86.20ドル、30日86.60ドル。

対ドル為替レート（TTM）は、8月10日～23日の間、143.96～146.49円の範囲で推移。8月24日144.86円、25日146.22円、28日146.55円、29日146.53円、30日146.05円。

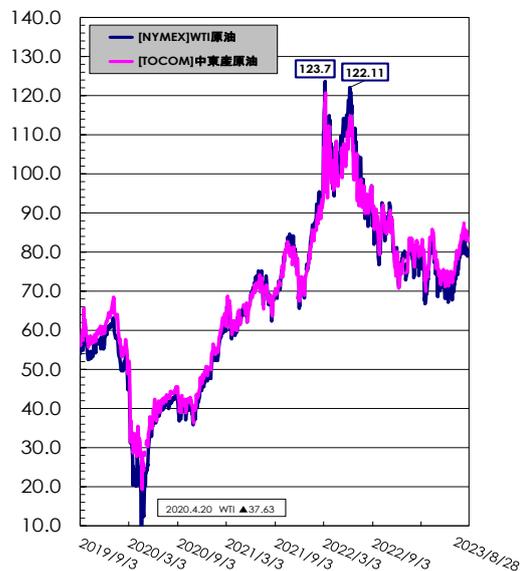
財務省が8月30日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、8月上旬の原油輸入平均CIF価格は、71.390円で、前旬比144円高、ドル建て81.02ドルで前旬比0.50ドル高、為替レートは1ドル/140.09円。

そのような中で、8月28日時点の価格は、ガソリンが前週比1.9円の値上がり、軽油も同2.0円の値上がり、灯油は同32円の値上がり（18リットルベース）。ガソリン・軽油・灯油ともに15週連続の値上がり、ガソリンの全国平均価格は185.6円と、15年ぶりに史上最高値を更新した（従来は2008年8月4日調査の185.1円）。

8月24日から燃料油価格激変緩和補助金は70%縮減となり、8月31日～9月6日の補助金の支給額は9.7円（従来ベースの補助額27.7円、25円以下部分は30%支給で7.5円、25円を超える部分3.0円は85%支給で2.2円）となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/20～8/26	3,049 ▲21	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	82.3 ▲0.6	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	8/26	12,211 ▼15	▲ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	8/28	83.63 ▼1.71	▼11.6
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	8/28	80.10 ▼0.62	▼16.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月上旬	81.02 ▲0.50	▼31.44
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	71,390 ▲144	▼24,264
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	140.09 ▲0.56	▼4.87
	外国為替TTSLレート (¥/\$)	8/28	147.55 ▼1.22	▼8.21

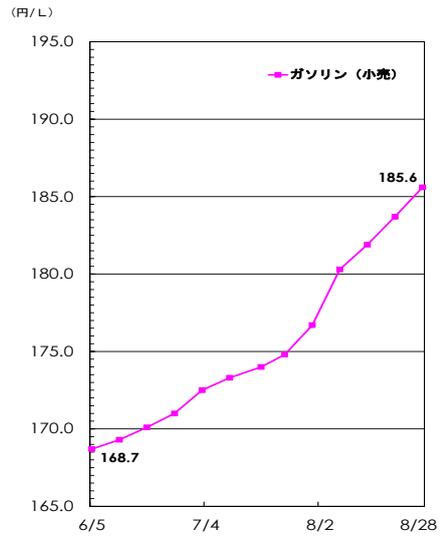
(\$/b)



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/20 ~ 8/26	836 ▼ -114	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	689 ▼ -144	▼ -	
	輸出	"	75 ▼ -45	▲ -	
	在庫	8/26	1,481 ▲ 71	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/22 ~ 8/28	93.1 ▲ 1.0	▲ 14.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/22 ~ 8/28	85.0 ➡ 0.0	▲ 5.0
		(TOCOM/中部)	8/28	91.5 ▼ -4.5	▲ 15.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/28	185.6 ▲ 1.9	▲ 17.1	

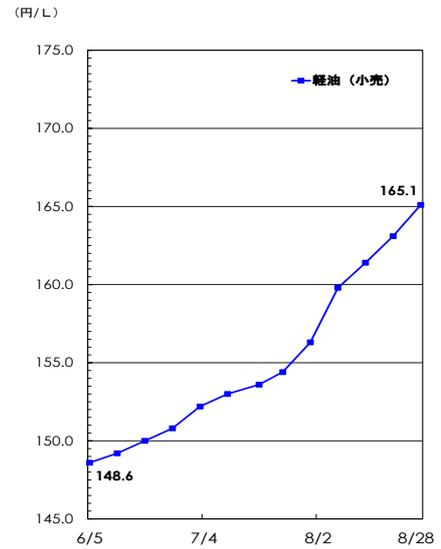
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

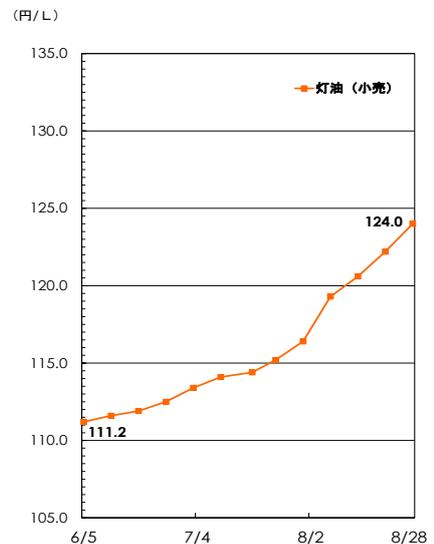
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/20 ~ 8/26	695 ▲ 22	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	655 ▲ 267	▲ -	
	輸出	"	170 ▲ 65	▼ -	
	在庫	8/26	1,415 ▼ -128	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/22 ~ 8/28	91.2 ▲ 1.0	▲ 16.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/22 ~ 8/28	93.4 ▲ 0.8	▲ 14.2
		(TOCOM/中部)	8/28	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/28	165.1 ▲ 2.0	▲ 16.6	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/20 ~ 8/26	261 ▲ 85	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	105 ▲ 65	▲ -	
	輸出	"	91 ▲ 41	▲ -	
	在庫	8/26	2,189 ▲ 65	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/22 ~ 8/28	91.5 ▲ 1.3	▲ 16.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/22 ~ 8/28	84.0 ➡ 0.0	▲ 5.3
		(TOCOM/中部)	8/28	90.2 ▼ -3.3	▲ 15.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/28	124.0 ▲ 1.8	▲ 12.0	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(8月24日~30日)のWTI石油先物市場は、24日に79.05ドルで始まり、週末25日から、サウジの減産観測、中国の景気刺激策への期待、メキシコ湾へのハリケーン襲来などで、4営業日続伸、80ドル台を回復、30日81.63ドルで終わった。

8月30日発表の25日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計によれば、原油在庫は市場予想(330万バレル減)を大きく上回る1060万バレルの取り崩しだったが、ガソリン在庫は予想を下回る取り崩しだった。

EIAによると、8月28日時点で、ガソリンの小売価格は、前

週比5.5セント値下がりの1ガロン3.813ドル(149.3円/ℓ)と8週ぶりの値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比8.6セント高と6週連続の値上がりの1ガロン4.475ドル(169.5円/ℓ)。

ベーカーヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、8月25日時点で、前週比8基減の512基と2週連続で減少した。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年8月20日~8月26日に休止したトッパー能力は27.6万バレル/日で、前週に対して7.1万バレル/日増加した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は304.9万klと、前週に比べ2.1万kl増加。前年に対しては23.4万klの減少。トッパー稼働率は82.3%と前週に対して0.6ポイントの増加、前年に対しては3.0ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェットが減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/12.0%減、ジェット/29.6%減、灯油/48.6%増、軽油/3.2%増、A重油/49.1%増、C重油/22.5%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比5.3万kl減)。軽油の輸出は17.0万kl(前週比6.5万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてガソリン、ジェットが減少し、その他の油種で増加した。前年比では灯油、軽油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は68.9万kl(対前週17.3%減)と3週連続で減少した。ジェット3.0万kl(対前週68.5%減)、灯油10.5万kl(対前週163.1%増)、軽油65.5

万kl(対前週68.5%増)、A重油15.9万kl(対前週49.2%増)、C重油20.6万kl(対前週7.8%増)。

(単位:千kl)

	今週 (8/20 ~ 8/26)	前週 (8/13 ~ 8/19)	前週比
ガソリン	689	833	▼ -144 (-17%)
ジェット燃料	30	96	▼ -66 (-69%)
灯油	105	40	▲ 65 (163%)
軽油	655	388	▲ 267 (69%)
A重油	159	107	▲ 52 (49%)
C重油	206	191	▲ 15 (8%)
合計	1,844	1,655	▲ 189 (11%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

8月26日時点の在庫は軽油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、軽油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは148.1万kl、前週差7.1万kl増。前年に対しては4.3万kl少ない。

灯油は218.9万kl、前週差6.5万kl増。前年に対しては28.4万kl多い。

軽油は141.5万kl、前週差12.8万kl減。前年に対しては6.2万kl少ない。

A重油は75.5万kl、前週差2.4万kl増。前年に対しては6.1万kl多い。

C重油は205.6万kl、前週差5.0万kl増。前年に対しては38.3万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (8/26)	前週 (8/19)	前週比
ガソリン	1,481	1,410	▲ 71 (5%)
ジェット燃料	889	874	▲ 15 (2%)
灯油	2,189	2,124	▲ 65 (3%)
軽油	1,415	1,543	▼ -128 (-8%)
A重油	755	731	▲ 24 (3%)
C重油	2,056	2,006	▲ 50 (2%)
合計	8,785	8,688	▲ 97 (1.1%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月22日～28日のドル建て中東原油価格はほぼ横ばいで、為替レートはわずかに円安で、元売会社の卸価格建値は据え置きになったものと見られる。

上記コストに先週の補助金額10.0円を加え、今週の補助金9.7円を差し引いた、8/31～9/6の実質卸価格は0.3円の値上げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

8月22日～28日の製品スポット市況は、8月15日～21日平均と比べ、ガソリンと灯油の先物取引の横ばいを除き、他の油種・取引で値上がりした。

直近週(8/22～8/28)の陸上スポット価格平均値は、前週(8/15～8/21)比で、ガソリンは1.0円の値上がり、灯油も1.3円の値上がり、軽油も1.0円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(8/22～8/28)に、前週(8/15～8/21)比で、ガソリンは1.0円の値上がり、灯油も0.2円の値上がり、軽油も0.6円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油も横ばい、軽油は0.8円の値上がりだった。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (8/22～8/28)	前週 (8/15～8/21)	前週比
スポット価格	レギュラー	93.1	92.1	▲ 1.0
	灯油	91.5	90.2	▲ 1.3
	軽油	91.2	90.2	▲ 1.0

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (8/22～8/28)	前週 (8/15～8/21)	前週比
先物価格	レギュラー	85.0	85.0	→ 0.0
	灯油	84.0	84.0	→ 0.0
	軽油	93.4	92.6	▲ 0.8

※上記価格は税抜き価格

参考値 (8/22～8/28実績値)				(単位: 円/%)	
油種	現物	先物	平均		
ガソリン	▲ 1.0	→ 0.0	▲ 0.5		
灯油	▲ 1.3	→ 0.0	▲ 0.7		
軽油	▲ 1.0	▲ 0.8	▲ 0.9		
A重油	▲ 0.8				

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

8月28日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.9円高の185.6円、軽油も2.0円高の165.1円、灯油も18%ペースで32円高の2,232円(1%ペースでは1.8円高の124.0円)。ガソリン・軽油・灯油ともに15週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは46都道府県、横ばいは1県、値下がりはなかった。全国最安値は岩手県の180.9円、その次は青森県の181.0円であった。他方、最高値は長野県の194.0円だった。最も値上がりしたのは福島県(前週比5.3円高)、横ばいは高知県だった。なお、既に、山形県(5週連続)等12府県が史上最高値を更新したが、新たに、秋田県・福島県・埼玉県・東京都・神奈川県・山梨県・富

山県・石川県・滋賀県・京都府・鳥取県・広島県の12都府県が史上最高値を更新した。

次回調査時(9/4)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がり予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (8/28)	前週 (8/21)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	185.6	183.7	▲ 1.9	23/8/28 185.6
	灯油	124.0	122.2	▲ 1.8	08/8/11 132.1
	軽油	165.1	163.1	▲ 2.0	08/8/4 167.4

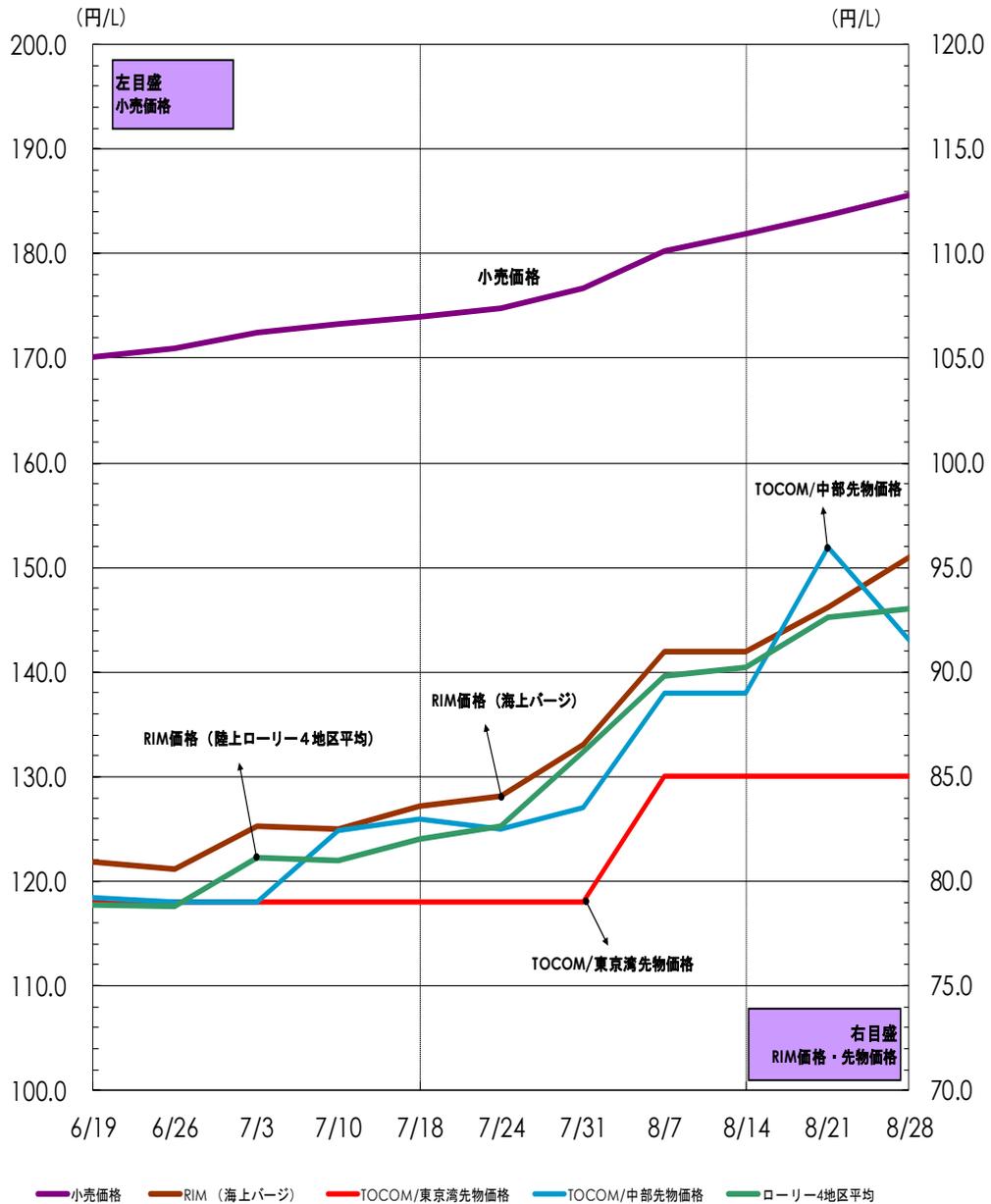
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/6/19 ~ 2023/8/28)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2023第21号)の公表は、9/8(金)14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。